

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスカプリス		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 10日		～ 令和7年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 10日		～ 令和7年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	十分に広いスペースを確保している	学習、運動、SST、落ち着ける小部屋、など、活動内容やこども心身の状況によって療育室が選択できる。活動が明確化され、メリハリや切り替えができる。 屋上を利用して、夏にはプールや流しそうめん、冬には雪合戦、年間をとおして野菜菜園など、幅広い経験ができる。	
2	専門性の高い常勤職員を手厚く配置している	社会福祉士、理学療法士、公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士、保育士等が常勤職員として在籍しているため、毎日5名以上(児童発達支援管理責任者、専門職、児童指導員あわせて)で支援できている。 送迎専門のスタッフも2名在籍しているため、事業所が提供したい療育や専門的支援が滞りなく実施できる環境にあり、職員はこどもたちに常に落ち着いて接することができる。	令和7年度からはさらに専門的支援の充実を図り、各々のこどもに必要な専門的取組をより深く評価分析し、支援に繋げていく。
3	意見を出しやすく、お互いが補完し合える職場環境である	法人として提供したい療育が明確にあり、それに沿って、「こどもたちにこんな体験をさせてあげたい」「こんなイベントはどうだろう」「この学習支援の方法はどうでしょう」など、職員それぞれの強みを生かしながらお互いを尊重し、程よく役割分担が出来ている。まずはやってみよう!というフットワークの軽さがある。	
4	保護者同士の交流が盛んである	年度に一回は親子参加のイベントを実施しており、毎回盛況。2月には全員参加をお願いしている保護者会も開催しており、子どもたちが作った料理やお菓子を振る舞ったり、保護者同士でゲーム大会をしたりなど、自然と交流ができるように工夫している。	令和7年度はドッジボール大会を予定している。 保護者から、もっと増やしてほしい旨の要望も多く、療育に支障のない範囲で実現可能か検討している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童の学年が偏っている	令和4年開設の為、圧倒的に小学校低学年が多い。	年度が変わるごとに学年は上がっていくものの、異年齢の活動が少し限られるので、今後も地域住民や地域のこどもとの交流の機会を意識的に増やしていく。
2	送迎範囲が広い	初年度利用開始の南区のこどもたちが3年生になり、遠方+6時間授業が増える為、事業所で活動できる時間が減ってしまう。	5時間授業後に来所するチームと、6時間授業後に来所するチームとに分けて、活動を提供していく。
3			